

令和6年度

総合型選抜Ⅰ「へるん入試」

読解・表現力試験

注意

1. 問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
2. 問題紙は5ページ、解答用紙は2枚です。指示があってから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
3. 答えはすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
4. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
5. 試験終了後、問題紙は持ち帰ってください。

1 以下の文章を読み、問1～問5に答えなさい。

インターネットは、世界中のコンピュータなどの情報機器をケーブルや無線などで互いに接続し、情報のやりとりを可能にしたネットワークで、パソコンやタブレット、スマートフォンの普及とともに急速に発展してきました。インターネットにつながっているコンピュータを使って、ホームページやリンクなどで情報を公開したり共有したりできる仕組みが、ワールド・ワイド・ウェブです。この仕組みのおかげで、私たちは自分のコンピュータから世界中の他のコンピュータ上にある情報へアクセスすることができます。インターネットは、ウェブサイトの閲覧による情報収集や、電子メールや音声通話、データ通信による情報 a□□ や情報 b□□ に非常に優れた機能を発揮します。現代社会においてインターネットは、なくてはならない存在となっています。

近年、教育分野でもインターネットは小学校から大学に至るまで積極的に導入され、これを利用した ICT 教育が急速に普及しつつあります。ICT 教育には、学習者側、教師側いずれにもメリットがあります。従来の教師による教科書の内容に即した話と板書のほかに、鮮明な動画や写真、音声を取り入れることで授業の幅が広がります。その結果、学習者の興味や関心、考える力、想像する力をより高めることができ、学ぶ楽しさに気づかせる可能性が高まります。また、板書およびそれをノートに書き写させるのに要していた時間を、考えさせる時間などとして使うことができます。さらに、教師と学習者の情報端末を結び、互いの情報を交換することで、学習者が主体的かつ協同的に授業に参加することも可能になります。教師にとっても、作成した資料や教材を学習者の端末に直ちに発信することができるため、最新の情報を授業に取り入れることが可能になります。

その一方、ICT 教育にはいくつかのデメリットも存在します。端末の導入には多額の費用がかかり、数年ごとに機器を更新する必要があります。また、これまでの授業方法とは大きく異なるため、教師にとってはネットワーク技術や動画作成方法の習得などの慣れない作業が増え、かえって非効率になってしまう場合もあります。学習者側のデメリットとしては、ある問題や疑問について、自分で考えずに手軽に検索することで、答えを安易に見つけてしまうことが挙げられます。また、情報の信頼性を判断する力が十分に育っていないと、インターネット上の誤った一部の情報を信用してしまうかもしれません。最近登場した ChatGPT^(注1)などの生成系 AI^(注2)では、著作権の問題なども指摘されています。

このように、ICT 教育にはいくつかのデメリットは存在しますが、それらを克服し、上手に活用すると、授業の幅が広がり、学習者はより効果的に学習することが可能になります。

(注1) ChatGPT：米国の企業が開発した人工知能型の自動応答システム

(注2) 生成系 AI：学習したデータをもとに画像・文章・音楽などを新たに作成する人工知能の総称

問1 下線部 a と b に入る最も適当な語を、本文の第2段落から抜き出して答えなさい。なお、a と b はいずれも2文字であり、a と b の順序は問わない。

問2 ICT教育の「ICT」は、3つの英単語の頭文字で、それぞれの単語の日本語訳は2文字である。本文中から抜き出して、これらの3つの日本語訳をそれぞれ答えなさい。

問3 ICT教育では、学習者はどのように授業にかかわることができるかと述べているか。本文中の言葉を用いて、30文字以内（句読点を含む）で答えなさい。

問4 ICT教育は、学習者のどのような力を高める可能性があるかと述べているか。本文中の言葉を抜き出して、10文字以内（句読点を含む）で答えなさい。

問5 次の(1)および(2)について、本文で述べられている著者の主張あるいは認識と合致しているものに○、合致していないものに×、をそれぞれつけたときの正しい組み合わせを次のア～エから選び記号で答えなさい。

(1)

- ① ICT教育は、学習者が受動的に授業に参加するための有効な方法である。
- ② ICT教育は、すべての教育機関に十分に普及している。

(①、②)： ア(○、○) イ(○、×) ウ(×、○) エ(×、×)

(2)

- ① ICT教育には学習者側のメリットは多いが、教師側のメリットは少ない。
- ② インターネット上の情報はすべて正しいとは言えない。

(①、②)： ア(○、○) イ(○、×) ウ(×、○) エ(×、×)

2 下の図は、消費者庁が公表している子どもの事故に関する「性別の日常生活事故による人口当たりの救急搬送人員数」である。この図を見ながら、Aさん、Bさん、Cさんの3人が会話をしている。以下の問1～問5に答えなさい。

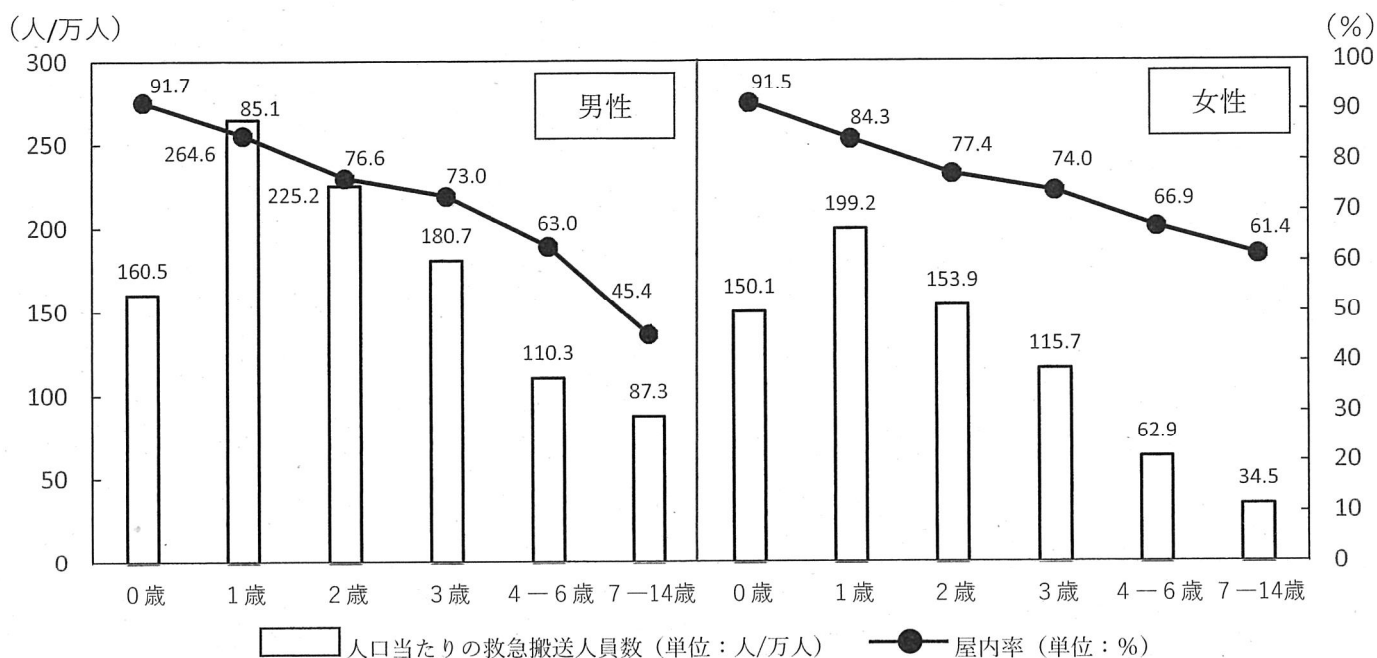


図 性別の日常生活事故による人口当たりの救急搬送人員数
消費者庁『平成30年版消費者白書』による

- A: この図は、日常生活の中で起こった事故で、0歳から14歳の子どもが救急搬送された人員数を性別に見たものですね。
- B: この図では、棒グラフと折れ線グラフが1つにまとめられていますね。棒グラフが人口当たりの救急搬送人員数を、折れ線グラフがその事故の屋内率、(ア)、救急搬送が必要になった事故のうち屋内で起こった割合を表しているのですね。
- C: このような図を2軸グラフといいます。
- B: 左の軸が棒グラフの数値と単位を、右の軸が折れ線グラフの数値と単位をそれぞれ示しているのですね。棒グラフと折れ線グラフを1つの図にまとめて書くことに、理由があるのでしょうか？
- C: より多くの情報を1つの図にまとめることで、比較して分析しやすくなるメリットがあります。

B：このような図にすると、a 救急搬送人員数の傾向と事故の屋内率の傾向の違いがよくわかりますね。

A：男性も女性も、救急搬送された人員数は1歳が最も多いですね。この図によると、1歳の男性では、(イ)人中264.6人が救急搬送されています。

B：どうして0歳ではなくて1歳の救急搬送人員数が、最も多いのでしょうか？

C：子どもは、1歳くらいになると、自分で歩いて動けるようになるからだと思います。

A：0歳では男性と女性の救急搬送人員数にあまり差はみられません。1歳以上になると、男性のほうがどの年齢でも救急搬送人員数がかなり多くなっていますね。

B：このデータから考えると、周囲の大人は、男性の子どもにより注意を払う必要があるかもしれませんね。

A：折れ線グラフを見て、救急搬送が必要になった事故は屋外よりも屋内で多く起こっていることにビックリしました。屋内にいても救急搬送されるような事故が起こることに注意しないといけないですね。

C：性別で見ると、屋内率は、0歳から3歳までは男性と女性とであまり差は見られませんが、7-14歳になると女性のほうが16%も多いですね。

B：しかし、グラフを詳しく分析すると、b 7-14歳でも、女性よりも男性のほうが屋内の事故で救急搬送される人口当たりの人員数は多いですね。

C：成長とともに変わっていく男女の行動の違いが、このデータに表われているのかもしれないですね。

問1 下線部 a が意味している内容について、最も適当なものを次の①～④から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 救急搬送が必要になった事故のほとんどが、屋外で起こっていること。
- ② 女性より男性のほうが、救急搬送人員数が多いこと。
- ③ 男性・女性ともに、人口当たりの救急搬送人員数は1歳が最も多いが、事故の屋内率は0歳が最も高いこと。
- ④ 男性・女性ともに、年齢が高くなるほど、人口当たりの救急搬送人員数は多くなるが、事故の屋内率は低くなること。

問2 (ア)に入る接続語として、適当なものを答えなさい。

問3 (イ)に入る適当な数字を答えなさい。

問4 下線部bについて、具体的な数値を示して説明しなさい(解答の文字数は問わない)。
数値は四捨五入して小数点以下第1位まで書きなさい。

問5 次の(1)および(2)について、本文で述べられている3人の会話の内容と合致しているものに○、合致していないものに×、をそれぞれつけたときの正しい組み合わせを次のア～エから選び記号で答えなさい。

(1)

- ① 0歳では男性と女性の救急搬送人員数にはあまり差はみられないが、1歳以上になると、女性より男性のほうが救急搬送人員数がかかなり多くなる。
- ② どの年齢においても、女性は男性よりも屋内率が高いので、女性については屋内の事故に注意が必要である。

(①、②): ア(○、○) イ(○、×) ウ(×、○) エ(×、×)

(2)

- ① 棒グラフと折れ線グラフを1つのグラフにまとめると、多くの情報が含まれるので分析を行うときには傾向の違いを読み取るのが難しい。
- ② 日常生活の中で、救急搬送される7歳未満の子どもの事故の半数以上が屋内で起きている。

(①、②): ア(○、○) イ(○、×) ウ(×、○) エ(×、×)